

～ Serving the *Community* and Supporting the *YMCA* since 1976 ～



# 埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ : *Let's Support Youth Citizens!*

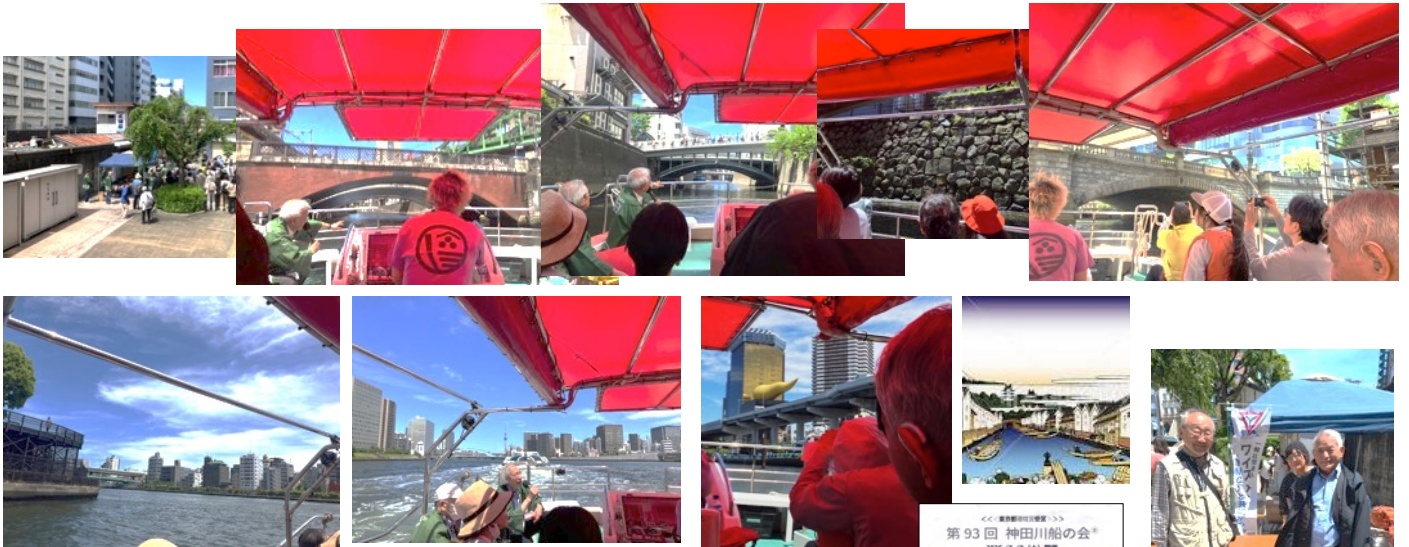
2026  
5月



2025-26 年度クラブテーマ「市民と繋がろう・市民に知らせよう」

## 第93回 神田川船で下る

ホルムズ海峡不通景色！さて春の神田川下りで1面を埋めた。この地域にはタワーマンションやビルも多いが、新住民や通勤者はこの地域の歴史や課題を理解しているのか気になる。今回は伊藤メンから埼玉県の人間像を紹介する一文をいただいた。年度を締める東日本区大会は6月初め。東日本大震災15年を覚えて石巻に全国から300人超が集まる。区大会のことと新会員の紹介は次号で。



[写真メモ] 5月9日(土) 春の神田川船下り。兄弟クラブの東京グリーンY's が46年前に始めた本企画は今回で93回目。午前10:30に2艘の船は浅草橋を出航し、青空のもと三崎橋・豊海橋・永代橋・勝鬨橋・両国橋・蔵前橋、と橋を次々とくぐる。多くの川が埋立地になった東京だが、かつては人々の生活基盤だった。ワイズメンが交替で歴史や環境問題を解説するのを聴きながら、写真を撮り、橋上の通行人と手を振り合い、時には波をかぶって、2時間はアツという間に過ぎた。メンたちのサービス精神に感動。埼玉クラブは上松・浅羽が参加。

募集案内



### 6月「父の日」例会

日時：6月15日(月) 10:00～12:00  
会場：市民活動サポートセンター(パルコ9階)  
話し合い：「次年度へつなぐ」

### 6月夜談(よるだん)会

日時：6月8日(月)：18時～20時  
会場：浦和東口「サイゼリア」  
\*会費：各自の飲食した分のみ。  
市民活動を実践する人、興味ある人が安心して知り合い、楽しく会話を進めるうちに異体験を共有し、見識を広げるさばけた大人の集いです。(平均6～10人)

### 今月の聖句

「神のなさる事は、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与えられる。しかし人は神が行うみわざの始まりから終わりまで見極めることができない。」

伝道の書3章11節(新改訳2017)

## ◆◆◆◆◆エッセイズ◆◆◆◆◆

### ◆「群書類従」のこと

伊藤澄夫 メン

最近「素顔の塙保己一：盲目の学者を支えた女性たち」という本を読んで感動した。著者堺正一は埼玉県立盲学校（現・埴輪保己一学園）元校長。是非ワイズメンに紹介したい。



塙保己一（全盲の国学者・1746～1821）が「群書類従」の編纂をはじめたのは 1779（安永 4）年、34 才のとき。1819（文政 2）年、74 才で完成、続編を計画するも 76 才で病没。四男忠宝（ただとみ）が和学講談所を継承し、書物の編集を続けたが、1862（文久 2）年、尊皇派に殺害された。



保己一は公家・大名・旗本・商家などが保有する多くの手書きの書物を、按摩のあと、褒美に読んでもらったが、それら貴重な本を後世に残すために、刷り直しできる木版にしたいと、多額の借財を覚悟で熟練の版木職人に頼んだ。使われた木材は主に山桜。完成したとき、その数 17,244 枚、巻数にして 666 巻。この保己一の事業を助けた当時の人々の多様な姿が窺える。書物を提供したのは裕福な地位の人達だが、保己一を最も支えたのは、身近な妻、娘、息子だった。今次の戦災を免れたこれらの版木は保己一を記念する渋谷の（社）温故学会が保存し、依頼すれば印刷できる。

さて話はアメリカのヘレン・ケラーに移る。ヘレンの母親はグラハム・ベル（電話の発明者・障害者教育の研究者）から紹介されたサリヴァン先生を通して保己一の話を知った。



ヘレンの来日は 3 回、1937（昭和 12）年 4 月、温故学会を訪れ、付き添いのトムソン女史、邦人通訳とともに塙保己一像、版木、保己一愛用の机に触れて保己一を偲び、30 日には埼玉県本庄市の生家を訪れ、浦和の旧埼玉会館で講演し、川西實三知事一家と交流している。

神保町の八木書店には、群書類従、続群書類従、続続群書類従が棚にあり、ウェブ版もあり、今も保己一と和学講談所の遺志を継ぎ製本が続く。八木書店には保己一編纂の「令義解」（りょうぎげ）もある。これは日本初の女医荻野吟子（熊谷出身）の座右の

書だった。保己一の影響に気付かされた。❖

\* 短縮していただいた原稿をさらに削ることになりました。伊藤メンにお詫び致します。

\* 紹介の「素顔の塙保己一」は埼玉新聞社から出版。また上記写真は温故学会玄関前の保己一の像。（編集士）

### ◆「後輩の訃報に接して」

上松寛茂 メン

古巣の勤務先で出会った後輩の訃報が PC を通じて社友会事務局から連絡があった。まだ駆け出しの地方記者時代、秋田支局にいたころ、京大の大学院（理系）を出て新人でやってきた。私より 3 歳年下。彼とは小生のマイカーで秋田県内をいろいろ走り回った。支局から東京本社に転勤の際、彼への仕事の引継ぎで、八郎潟干拓地の八郎潟村に住む入植者の妹さんと当時秋田県庁に勤務していた女性を紹介した。戦後の食糧危機から、琵琶湖に次ぐ広さの湖の八郎潟を埋め立てて日本のモデル農村としてスタート、やっと完成期を迎えたと思ったら、コメの生産過剰。コメ余り、減反という生産調整に追い込まれ、違反した農家の「青刈り」の嵐が吹きまわった。全国から集まってきた約 650 戸の農業従事者が意欲的な農業に取り組んでいた。米カリフォルニアで農業を学んで帰国した彼女の兄を取材、「八郎潟干拓地にける青春」のテーマで、ヤング欄の特集記事を執筆した。彼の結婚式にも出席。八郎潟村は車で 1 時間以上かかり、彼の妹さんを通じてその情報収集という意味合いもあった。それから間もなく彼は妹さんと結婚。びっくり。私はキューピットの役割を果たしたわけ。彼はその後科学部に所属、日本の医学分野の権威に。論説委員も務めた。娘さんは大手紙のモスクワ特派員。急遽一時帰国して葬儀には間に合ったとか。



長々と後輩の訃報に至る若き日の経緯を書いたが、小生現在 80 歳。私より若い人がどんどん鬼籍に。あと、どれくらい生存できるのか。いつも気になる。神様から「生かされている」という実感がわいてくる。ワイズメンとのお付き合い、引き続きよろしく。❖



\* 写真は本文と関係ないです。記者の視線は今も確かなもの。チェンマイ国際大会の民族衣装交流会の上松メン。

\* 今回は世界 Y 同盟の 2026 年 5 月 4 日付 HP 掲載記事をグーグル翻訳し短縮・編集したもの。(編集士)

2025 年初頭、EU ユース・エンパワーメント基金(YEF)の助成金の対象として世界 Y 同盟が選んだユースチームは受給後一年、世界各地で様々な SDGs 活動に取り組んできた。今回はコソボ YMCA ユースの活動を紹介する。

YMCA コソボの「ユース・フォー・グリーン」プロジェクトは、若者対象に実践的な環境活動を通して持続力のあるリーダーを養成するものだ。このプロジェクトは、ジャコヴァ、ペヤ、プリシティナの 3 自治体で数千人の若者に働きかけた。昨年 6 月に開催したグリーンキャンプでは、若者たちは SDGs について学び、都市型菜園を共同で設計し、仲間同士でワークショップを企画・実施しました。さらに 10 月からは、このワークショップ企画を学校で実施し、数千人の生徒を巻き込むことができた。

大きな成果は、ペヤとプリシティナに 2 つの都市型庭園を造成したこと。若者たちはリサイクル家具、昆虫ホテル、バードフィーダー、SDGs に関する情報プレート、特注プランターなどを庭園に取り入れた。これら庭園は、地域社会にとって教育の場となるだけでなく、SDGs について実践的に学ぶ機会も提供することになる。このプロジェクトは学習と行動とをつなぎ、若者の環境問題への理解を深め、その上、リーダーシップ技術を体験することで彼らの自信を伸ばした。ボランティアのリガさん(21 歳)は様々なワークショップを開催することで、大きく成長したと言う。「別の都市から来た同世代の若者たちの前で、皆に影響する問題について話すのは大変です。これらの庭園はワークショップを超えて人々の意識を高めます。長く続くでしょう。」サンドウエンさん(17 歳)は、キャンプとプロジェ



クトを通して自分が何に刺激を受けたかを振り返る。「楽しさと学びの両方を経験しました！地球規模の問題に対する好奇心が高まり、誰もが解決策を生み出す役割のあることを改めて認識しました。」

このプロジェクトは誰でも受け入れる包括的アプローチを重視し、都市部と農村部の若者をつなぎ、共に環境活動に参加する機会を提供できた。

## 埼玉 Y の 小窓 から

\* 埼玉クラブが埼玉 YMCA にもっと親近感をもって支援できるように普段見られない活動のスナップを YMCA 職員がブリテンを通して共有してくれています。

所沢市より指定管理者として 12 年目を迎えているこぼと児童館にて 5 月 24 日に「こぼと こどもまつり」を行ないました。朝方降っていた細かい雨も、昼前には曇り空になり、午後の開催時には良い天候になりました。乳幼児親子から高校生まで 323 名の来場者があり、模擬店、ゲームコーナー、縁日、乳幼児親子の製作コーナーなどで楽しみました。

今年は中学生ボランティアが企画したチョコ入りベビークステラが人気。作るのが追いつかないほどで



した。去年は館庭で模擬店のみを開きましたが、今回は模擬店だけでなく、縁日も館庭に集めたことで、多くの人が児童館の内と外で楽しむ賑やかな 時間となりました。

生活クラブ在籍児童とその保護者、OB・OG、民生委員、愛育班など、多くの地域の方々の協力によって盛況となりました。今後もこどもたちによる、こどもたちのための児童館を地域の方たちと共に運営いきたいと思っています。

- ・写真(上)「何が当たるかな」千本引き
- ・写真(中)水ヨーヨー

に挑戦する。・写真(下)受付する小学生ボランティア

所沢市立児童館館長 太田昌孝氏(埼玉 Y 職員)

\* 子ども達の写真掲載については保護者の了解を得ております。(編集士)

## 活動・会議メモ

### ◆ 5月「夜談会」



5月11日の夜談会は従来形式で18:00～20:00で浦和サイゼリアに集まって和やかに話した。

というか、今回は女性が参加せず、定刻前に閉会。ただ一つ教訓を得た。紙幣のコピーは、一部分であろうと、白黒であろうと、たとえ子供のお遊び用でも、法律で禁止されている。後で調べたらコンビニのコピー機に紙幣を置くと、警報が鳴るそうだ。会長以外皆知っていた。(浅羽 記)

- \* ゲスト・ビジター：長谷川、大輪
- \* メン：衣笠、高岡、上松、浅羽

### ◆ 5月「母の日」例会

5月18日(月)午前10時からサボセンのラウンジの奥のテーブルで開会。今回はオーストラリア出身のマリー・コスグローヴさん。そもそも日本語学習で来日し、その後縁あって埼玉YMCAや埼玉大学で英語を教え、今は高崎経済大学でオーラル・コミュニケーションの授業を担当しておられる。日本における女性の地位について、というテーマにマリーさんがまず切り出したのが「男子厨房に入らず」の諺。知り合いの歯科医師は立派な邸宅に住んでいたが、台所は小さかった。



話はそのからマリーさんの目下の関心事に移行。学生たちにSDGs、中でも地球環境問題に目を向けさせようとしているそうだ。学生たちが周りを気にせず一人ひとりしっかり考えて語れる人間に育ってほしいと言う。兄弟たちの体験なども紹介しながら流暢な日本語で語り、結局予定時間を過ぎて閉会。また招きたい。(浅羽 記)



[ゲスト/ビジター] コスグローヴ、浅羽m、  
[メン] 浅羽、伊藤、上松、金子、衣笠、桜井、高岡、水無瀬(ズーム)

### ◆ 第2回 部評議会・次期役員研修会・懇親会

5月30日13:30～17:00 東京YMCA 東陽町センターにて上記会議と研修会が開かれ、終了後いつもの居酒屋で懇親会が持たれた。評議会にて新役員が承認され、続く研修会は予定より30分以上前に終わった。懇親会はクラブを超えて少ない仲間で絆を強めた。当クラブから衣笠、浅羽が出席。(浅羽 記)



## 仲間からの便り



### ◆ 今月の俳句 堀和光二郎メン(俳号 愚道)

七変化(アジサイ) 今日は何を語るのか

見るたびに趣を変えるあじさいですが、何かを語っているようですね。



子供の日窓に吊るしたこいのぼり

大きな窓には立派なこいのぼりが泳いでいますが、小さなアパートの窓にも子供の成長を願う小さな鯉のぼりが吊るしてありました。

年老いてツツジしおれて外に出ず

ツツジが綺麗な花を咲かせた後、しおれていきます。まるで家に閉じこもり始めている自分のよう…

| 統計         | 出席 | 会員 | ゲスト/ビジター |
|------------|----|----|----------|
| 5夜談会(5/11) | 6  | 4  | 2        |
| 5月例会(5/18) | 10 | 8  | 2        |



### ワイズメンズクラブ 案内

ワイズメンズクラブ国際協会(Y's Men International)は青少年教育団体YMCAを支援する国際的奉仕クラブで、若者と地域への奉仕と、国内外の交流を大切にします。肩書き/性別/政治/宗教/年齢差を問わず皆対等です。奉仕活動に挑戦してみたい方に向いています。埼玉クラブは浦和区を拠点に活動しています。先ず月例会の雰囲気味わってください。年会費4万円ですが、ゲストでも一緒に活動できます。

\* 詳細は浅羽会長まで。(090-7426-5553)